

1. たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。(13:1-3)
 - a. この有名な愛の聖句はしばしば結婚式で引用される。文脈としてはパウロによる御霊の現われの教えの間に挿入された形である。
 - b. 御霊の現われのうち最も優れたものは愛から出るものであり、愛がなくては最もすばらしい御霊の現われさえ腹立たしい、値うちのない、無益なものになってしまう。その良い例がサタンである。霊的には優れた才能を持つ存在でありながら、神にとってはやかましいどらにすぎず、何の得にもならない。
 - c. 御霊の現われのある所には時はどういうわけか聖霊だけでなく他の霊も引き付けられるようだ。他の霊はそれぞれ独自の意図を持ち、注目され、認められ、礼拝されるための策略をめぐらせている。
2. 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。(13:4-7)
 - a. これら(悪魔的な、汚れた、邪悪な、律法主義的な…)他の霊を引き付けないようにし、関わらないようにするには、このような霊から自分を遠ざけ、聖霊の現われのみを求めていくことである。
 - b. しかし御霊を渴望し信仰に成長したいと願う者は、神の超自然的な側面だけでなく、神のご性質(愛、聖さ、義など)も求めていかなければならない。
 - c. 御霊の現われと同様、愛も神がくださる恵みであるが、これらの恵みは活用することも無視することもできる。恵みは使えば使うほど豊かになる。
 - d. 御霊を求め続けていく時、私たちの言動が聖霊から来ているものか吟味してみよう。神から来ているものはそのような性質によって特徴づけられる。もしも誰かが超自然的に、あるいはこれらの特徴なしにふるまっていたら、それは何か他の霊の現われか、御霊の乱用である。
3. 愛は決して絶えることがありません。預言の賜物ならばすたれます。異言ならばやみます。知識ならばすたれます。というのは、私たちの知っているところは一部分であり、預言することも一部分だからです。完全なものが現われたら、不完全なものはすたれます。(13:8-10)
 - a. 御霊の現われははっきりした目的をもっている。それは終わりを迎えるための手段なのである。御霊の現われはそれを得ることが最終目的ではなく、キリストのからだを完全にするという役割を持っている。
 - b. 一方愛は目的に達するための手段ではなく、そこから何かを得るために使うものでもない。むしろ愛そのものがゴールなのである。私たちは最初に私たちを愛してくださった方のために愛するのである。
 - c. 御霊の現われはいずれ今の形を変えなくなっていく。しかし愛は決して絶えることがなく、いつまでも続くものである。